

令和2年8月28日
統計部公表

令和2年産水稻の8月15日現在における作柄概況（北陸）

－ 作柄は、各県とも「平年並み」の見込み －

【調査結果】

北陸地域の8月15日現在における水稻の作柄は、新潟県、富山県、石川県及び福井県は「平年並み」が見込まれる。

これは、7月の長雨により日照は少なくなったものの、全般的に高温多照で経過し、おおむね天候に恵まれたためである。

図 県別作柄の良否（8月15日現在）



注：本図で用いた作柄の良否の表示区分は、「平年並み」が対平年比101～99%に相当する。

○ 作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

本資料は、北陸農政局ホームページ中の「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/2020yotei.html> 】

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎累年データ

水稲の年次別推移（北陸）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む)		10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	参 考		作況指数
	子実用	主食用 作付面積			収 穫 量 (主食用)		
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 22 年産	213,000	210,900	526	1,109,000	198,300	1,043,000	99
23	212,900	208,800	537	1,122,000	195,500	1,050,000	101
24	213,400	209,400	545	1,141,000	194,100	1,057,000	102
25	215,100	212,700	545	1,160,000	193,900	1,058,000	102
26	215,500	212,500	536	1,139,000	190,000	1,019,000	100
27	214,100	207,800	531	1,104,000	184,100	977,800	99
28	213,400	205,600	567	1,165,000	182,100	1,031,000	107
29	212,500	204,100	529	1,079,000	180,100	952,100	98
30	212,700	205,600	533	1,096,000	184,800	985,300	98
令和 元 年産	212,800	206,500	540	1,115,000	186,400	1,007,000	101

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
 2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 3 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
 4 作況指数は、平成27年産から令和元年産までは北陸地域に所在する農家等が使用しているふるい目幅分布において、その目幅が大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（1.85mm）以上で選別された玄米を基に算出した数値である。なお、26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

【管内各県の調査結果】

1 新潟県

新潟県の8月15日現在における水稻の作柄は、「平年並み」と見込まれる。

詳細は以下のとおり。

- (1) 田植最盛期は、平年に比べ1日遅い5月11日となった。
- (2) 出穂最盛期は、7月の長雨により日照が少なく経過したことから、平年に比べ1日遅い8月6日となった。
- (3) 穂数は、田植期以降、6月までおおむね高温多照に経過し、初期生育は順調であったものの、7月は長雨となり日照が少なかったことから、「平年並み」と見込まれる。
- (4) 1穂当たりもみ数は、穂数が少なくその補償作用が見込まれる地域が多く、「やや多い」と見込まれる。
- (5) この結果、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数。以下同じ。）は、「平年並み」と見込まれる。
- (6) 登熟は、出穂期以降、天候はおおむね順調に経過していることから、「平年並み」と見込まれる。

2 富山県

富山県の8月15日現在における水稻の作柄は、「平年並み」と見込まれる。

詳細は、以下のとおり

- (1) 田植最盛期は、平年に比べ1日早い5月11日となった。
- (2) 出穂最盛期は、7月の長雨により日照が少なく経過したことから、平年に比べ4日遅い8月5日となった。
- (3) 穂数は、栽植密度が高い傾向となり、田植期以降、6月までおおむね高温多照で経過し、初期生育は順調であったことから、「多い」と見込まれる。
- (4) 1穂当たりもみ数は、穂数が多いことによる相反作用が見込まれることから、「やや少ない」と見込まれる。
- (5) この結果、全もみ数は、「やや多い」と見込まれる。
- (6) 登熟は、全もみ数が多いことによる相反作用が見込まれることから、「やや不良」と見込まれる。

3 石川県

石川県の8月15日現在における水稻の作柄は、「平年並み」と見込まれる。

詳細は以下のとおり。

- (1) 田植最盛期は、平年並みの5月5日となった。
- (2) 出穂最盛期は、7月の長雨により日照が少なく経過したことから、平年に比べ1日遅い7月30日となった。
- (3) 穂数は、田植期以降、6月までおおむね高温多照で経過し、初期生育は順調であったことから、「平年並み」と見込まれる。
- (4) 1穂当たりもみ数は、7月が長雨により日照が少なく経過したものの、気温は確保されたことから、「平年並み」と見込まれる。
- (5) この結果、全もみ数は、「平年並み」と見込まれる。
- (6) 登熟は、出穂期以降、天候はおおむね順調に経過していることから、「平年並み」と見込まれる。

4 福井県

福井県の8月15日現在における水稻の作柄は、「平年並み」と見込まれる。

詳細は、以下のとおり。

- (1) 田植最盛期は、平年並みの5月16日となった。
- (2) 出穂最盛期は、7月の長雨により日照が少なく経過したことから、平年に比べ4日遅い8月4日となった。
- (3) 穂数は、田植期以降、6月までおおむね高温多照で経過し、初期生育は順調であったことから、「平年並み」と見込まれる。
- (4) 1穂当たりもみ数は、7月が長雨により日照が少なく経過したものの、気温は確保されたことから、「平年並み」と見込まれる。
- (5) この結果、全もみ数は、「平年並み」と見込まれる。
- (6) 登熟は、出穂期以降、天候はおおむね順調に経過していることから、「平年並み」と見込まれる。

【統計表】

1 令和2年産水稻の田植期、出穂期及び出穂済面積割合（8月15日現在）

区分	田植期						出穂期						出穂済面積割合 %
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較				
				対平年	対前年				対平年	対前年			
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日			
新潟県	5. 4	5. 11	5. 21	1日遅	1日遅	7. 25	8. 6	8. 15	1日遅	3日遅	96		
岩船	5. 3	5. 12	5. 21	並み	1日遅	7. 29	8. 9	…	1日遅	3日遅	94		
下越北	5. 2	5. 7	5. 18	1日遅	2日遅	7. 26	8. 8	8. 14	3日遅	6日遅	97		
下越南	5. 2	5. 5	5. 17	並み	並み	7. 23	8. 6	8. 15	3日遅	3日遅	95		
中越	5. 3	5. 9	5. 21	並み	1日遅	7. 22	8. 4	8. 14	1日遅	2日遅	97		
魚沼	5. 12	5. 20	5. 29	並み	1日遅	7. 28	8. 6	8. 15	1日遅	4日遅	97		
上越	5. 6	5. 16	5. 27	並み	1日遅	7. 22	8. 2	8. 14	1日早	1日遅	98		
佐渡	5. 3	5. 9	5. 22	1日遅	並み	7. 28	8. 7	…	並み	2日遅	94		
富山県	4. 30	5. 11	5. 21	1日早	並み	7. 12	8. 5	8. 15	4日遅	4日遅	98		
石川県	4. 30	5. 5	5. 23	並み	並み	7. 17	7. 30	8. 6	1日遅	1日遅	100		
加賀	4. 29	5. 4	5. 22	並み	1日遅	7. 14	7. 28	8. 4	2日遅	1日遅	100		
能登	5. 1	5. 5	5. 24	並み	1日早	7. 19	7. 31	8. 7	1日遅	1日遅	100		
福井県	5. 2	5. 16	5. 27	並み	並み	7. 15	8. 4	8. 15	4日遅	2日遅	96		
嶺北	5. 2	5. 16	5. 27	1日遅	並み	7. 15	8. 4	8. 15	4日遅	2日遅	96		
嶺南	5. 2	5. 16	5. 26	並み	並み	7. 15	8. 4	8. 15	4日遅	2日遅	98		

注：1 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。
2 出穂期の「終期」の欄の「…」は、8月15日現在で期日に達していないことを示す。

2 令和2年産水稻の作柄概況（8月15日現在）

区分	作柄概況(平年比較)				
	作柄の良否	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
新潟県	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み
岩船	やや良	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み
下越北	平年並み	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
下越南	平年並み	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
中越	やや良	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
魚沼	やや良	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
上越	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
佐渡	平年並み	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
富山県	平年並み	多い	やや少ない	やや多い	やや不良
石川県	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
加賀	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
能登	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
福井県	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
嶺北	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
嶺南	平年並み	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み

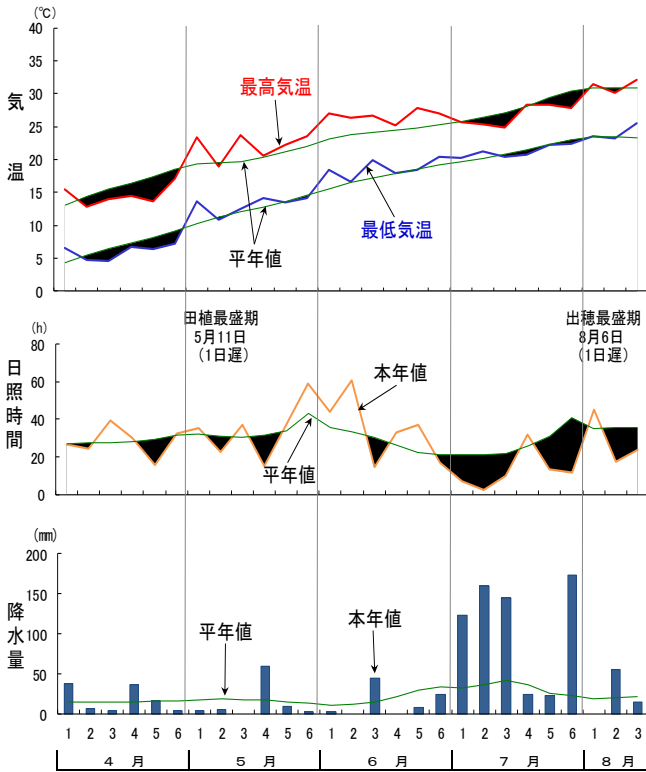
注：本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや不良・やや少ない」が98~95%に相当する。

◎関連データ

令和2年アメダス半旬別気象グラフ（新潟、富山、金沢、福井）

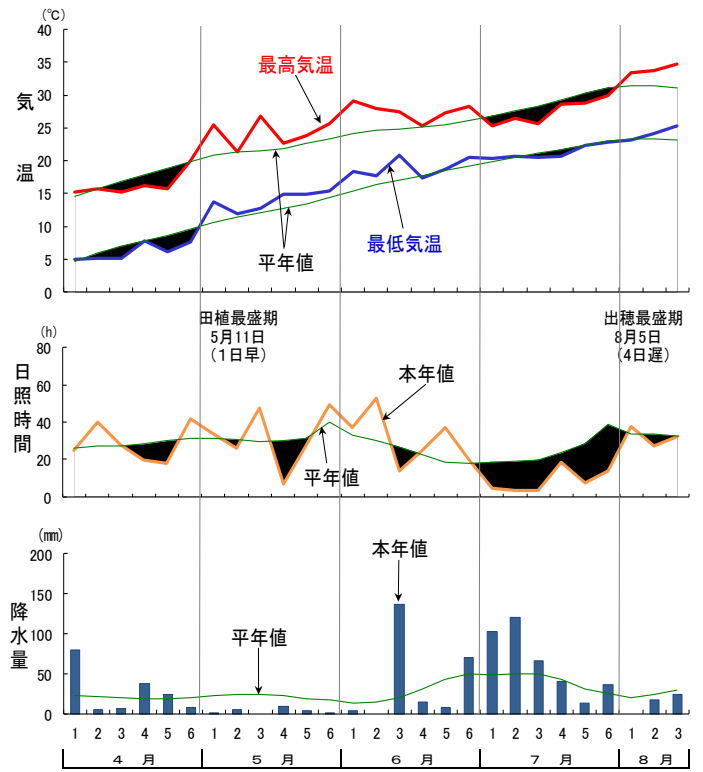
1 新潟

令和2年 アメダス半旬別気象グラフ(新潟)



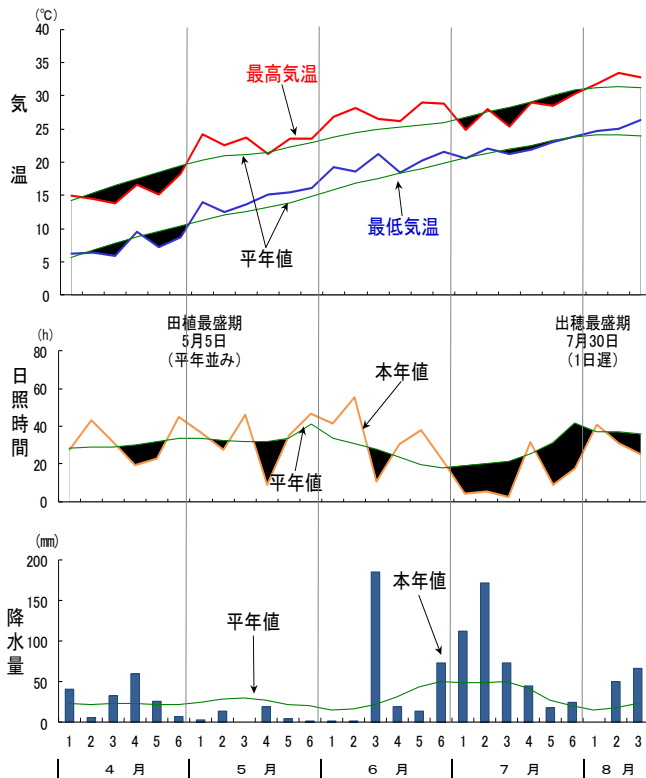
2 富山

令和2年 アメダス半旬別気象グラフ(富山)



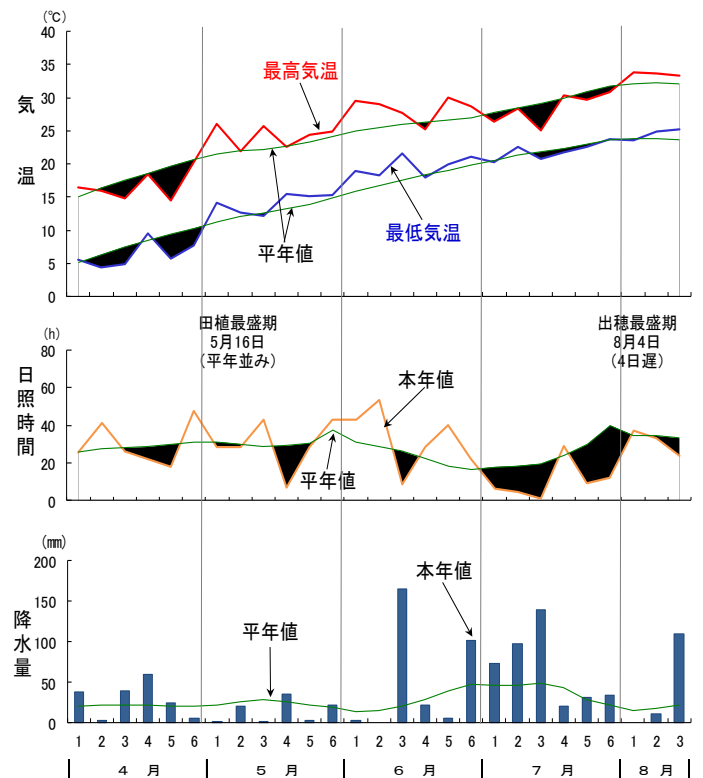
3 金沢

令和2年 アメダス半旬別気象グラフ(金沢)



4 福井

令和2年 アメダス半旬別気象グラフ(福井)



【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作柄概況調査として実施したものであり、水稻の作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査対象の選定

水稻が栽培されている耕地

(2) 調査対象数

北 陸 作況標本筆：1,110筆 作況基準筆：25筆

新潟県 作況標本筆：440筆 作況基準筆：13筆

富山県 作況標本筆：220筆 作況基準筆：3筆

石川県 作況標本筆：220筆 作況基準筆：5筆

福井県 作況標本筆：230筆 作況基準筆：4筆

※作況基準筆は、地域の代表的なほ場を有意に選定し、水稻の草丈、莖数、穂数、一穂当たりもみ数等について測定を行い、本年の気象経過による作柄及び被害の特徴とその原因を把握する。

3 調査事項

田植期の遅速、出穂期の遅速、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種条件等

4 調査期日

令和2年8月15日現在における水稻の作柄概況を調査した。

5 調査・集計方法

(1) 母集団

空中写真(衛星画像等)に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方(北海道にあっては、400m四方)の格子状の区画のうち、田耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区の集まりを母集団としている。

(2) 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、水稻の生産力(地形、気象、栽培品種等)により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

(3) 標本配分及び抽出

都道府県別の標本数を階層別に水稻の作付面積に10a当たり収量の母標準偏差を乗じた積に比例して配分する。

階層別に配分された標本数を単位区の水稲作付面積(田台帳面積)に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稻が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆(実測調査を行う筆)とする。

(4) 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行う。

(5) 作柄の良否の把握

作柄の良否は、1株当たり穂数、1穂当たりもみ数、登熟状況等の収量構成要素のうち計測可能なものを実測し、実測できない場合は、同じ地域の作況標本筆等の実測結果を基に、過去の調査結果や気象データ等により10a当たり収量を予測し、5段階評価（平年対比）で取りまとめたものである。

なお、予測した10a当たり収量は、未確定の要素が多いことから公表していない。

6 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。

(2) 「作柄の良否」とは、10a当たり予想収量が平年と比較して多いか少ないかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。

(3) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

(4) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

(5) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

(6) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。

(7) (3)～(6)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した1㎡当たり穂数等の平年値との比較である。

(8) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も大きい割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出する。

作況指数の算出に用いるふるい目幅

新潟県	富山県	石川県	福井県
1.85mm	1.90mm	1.85mm	1.90mm

(9) 「10a当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

7 利用上の注意

(1) 統計数値については、次の方法で四捨五入している。

原数		7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (1万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3桁	2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

(2) この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和2年産水稻の8月15日現在における作柄概況（北陸）」（北陸農政局）による旨を記載してください。

8 作柄表示地帯とそれに含まれる市町村

県	作柄表示地帯	市町村					
新潟県	岩 船	村上市	関川村	粟島浦村			
	下 越 北	新発田市	阿賀野市	胎内市	聖籠町		
	下 越 南	新潟市	燕市	五泉市	弥彦村	阿賀町	
	中 越	長岡市	三条市	柏崎市	加茂市	見附市	田上町
	魚 沼	出雲崎町	刈羽村				
	上 越	小千谷市	十日町市	魚沼市	南魚沼市	湯沢町	津南町
佐 渡	糸魚川市	妙高市	上越市				
富山県	富 山	佐渡市					
石川県	加 賀	富山県下全市町村					
	能 登	金沢市	小松市	加賀市	かほく市	白山市	能美市
		川北町	野々市市	津幡町	内灘町		
福井県	嶺 北	七尾市	輪島市	珠洲市	羽咋市	志賀町	宝達志水町
		中能登町	穴水町	能登町			
福井県	嶺 南	福井市	大野市	勝山市	鯖江市	あわら市	越前市
		坂井市	永平寺町	池田町	南越前町	越前町	
		敦賀市	小浜市	美浜町	高浜町	おおい町	若狭町

9 その他

本調査における作柄概況（8月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

○北陸の各種農林水産統計調査結果は、北陸農政局ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/> 】

○各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html 】

お問合せ先

◎本統計調査結果について

連絡先：北陸農政局 統計部
生産流通消費統計課

電 話：（代表）076-263-2161 内線 3647
（直通）076-232-4895

連絡先：北陸農政局統計部（新潟県担当）

電 話：025-224-1441

連絡先：北陸農政局統計部（富山県担当）

電 話：076-441-0340

連絡先：北陸農政局統計部（石川県担当）

電 話：076-241-3175

連絡先：北陸農政局統計部（福井県担当）

電 話：0776-22-3676

◎農林水産統計全般について

連絡先：北陸農政局 統計部
統計企画課 企画係

電 話：（代表）076-263-2161 内線 3623
（直通）076-232-4892



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)
<https://www.e-stat.go.jp/>